



第11回全国家読 ゆうびんコンクール

三郷市議会議長賞

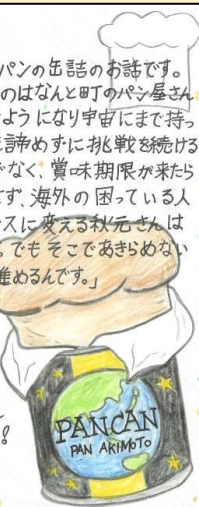
お母さんへ

この本は阪神淡路大震災の被災者からの声に応え生まれたパンの缶詰のお話です。3年経っても美味しい非常食「パンの缶詰」を諦めず開発したのはなんと町のパン屋さんなんです。パンの缶詰がどういう経緯ででき、それが世界を救うようになり宇宙にまで持っていくようになったのか？そこにはどれだけ失敗を重ねても諦めずにおもむきで続ける秋元さんの姿がありました。また、パンの缶詰という技術だけでなく、賞味期限が来たら食べられずに捨てられてしまうパンや缶詰の缶を無駄にせず、海外の困っている人に届ける社会のシステムを作ったりといういろいろな困難をアラスカに変える秋元さんは本当にすごいと思いました。「人間って失敗をする生きものです。でもそこであきらめないということ。自分の夢やミッションを持っているとそこに向かって進めるんです。」

という言葉は受験生の私の心に深く突き刺さりました。

私も今は高校受験というミッションに向け頑張る、将来は秋元さんのように誰かの役に立てようという仕事をしたいと思いました。それから最近、地震も多く台風の被害も拡大しているので、秋元さんのパンの缶詰を貯蔵しておきたいですね！

みうより



大きい一年生と 小さな二年生

はなが おすすめしてくれた『大きい一年生と 小さな二年生』を読んだよ。あきよは 二年生になってもお友達の子ぐらいにはか見えにくいくらい 背が 低いのが 嫌で 小悪魔 いるんだね。

二年生に なると 前の 晩、寝ている間に 背が ぐんぐんと 伸びると思て ドキドキして 朝起きて 背の高さを はかて ねたのが 可愛い なよと思つたよ。あきよのお母さんが がっかりした あきよを見て 笑っていたのを、可愛いと思つたのだからと思う。でも あきよは 傷ついて しまつたね。

はながも 背が 背が 小であつたが、早く大きくなりたが、なると 背が 伸びるって 早く 背が 伸びたこと

思ひ出したよ。あきよも その時に 笑ひ 思ひ出して いないか ねん として しまつた。

周りから 外から いたこと ないと思ひ出す 小悪魔でも、年人にとつては とも 大きな

ことなんだね。この本を読んで、そこに 笑ひが されたよ。



『びんにいれてごらん』デボラ・マレセロ作

よしかずへ

このお話は、お友だちとの思い出をびんに入れて集めるうさぎの男の子のお話です。思い出といっても葉、はや小石とかパゲではなく、なんと!! にじや波の音、遊んだ思い出の場面だてとじめられる不思議なびんなんだよ!! すばよね!!

お母さんは、このお話を読んで、そんなびんが、たまらなく欲しくなりました。この2年、お兄ちゃんとあなたを育ててきた日々に、写真やビデオではおさまりきれない、覚えておきたい出来事や、時と止めたい、くらしい愛おしい場面が、



もし、こんなふうに、その時間、その一瞬の数々をびんの中にとじめておけるなら、ときどき、お兄ちゃんやあなたと一緒に、その頃のかけがえない時間に、心ばかりで戻れるんだなあ、と想像するだけで、すてきな気持ちになります。あなたには、どんな瞬間をとじめたいのかな、この本を読んで、思いをつたえ、教えてね。

お母さんより